



#019
2023 Winter
【 えっと 】
広島県



医師として広島県を
「えっと」楽しむマガジン

ETTO

【 えっと 】 2023 Winter

#019

広島県地域医療支援センター（公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構）



広島の医師・研修医・医学生を応援します

ふるさとドクターネット広島にご登録ください！

「ふるさとドクターネット広島」は、広島県の地域医療を担う医師や医学生の皆様とのネットワークづくりを目的としたサイトです。

ETTO

Feature | 特集
中山間地域を支える
地域医療の現場！
～ 広島県 地域医療最前線 ～



広島県地域医療支援センター（公益財団法人 広島県地域保健医療推進機構）が発行する、医学生・研修医・若手医師に広島県の医療をPRするための広報冊子です。今号では安芸高田市、三次市、庄原市の3つの中山間地域の病院に密着して、それぞれが目指す地域医療を特集します。



広島県地域医療支援センターが皆さまをサポートします！

- ・スタッフが全国どこでも面談にお伺いします。
- ・臨床研修病院や若手医師勉強会等の情報を随時発信しています。ぜひ、「ふるさとドクターネット広島」をご覧ください！

ふるさとドクターネット広島とは？

登録メリット
就業の個別相談を無料で受け付け月1度のメルマガの他広報誌ETTOをお届け

信頼
医療法に位置付けられた広島県地域医療支援センターが運営する公的なホームページ

充実
求人情報、取り組み状況、医師インタビューなど充実の内容で広島県の医療情報が満載！

相談コーナーもあります！子育ても応援しています！

ふるさとドクターネット広島
<https://www.dn-hiroshima.jp>

広島県地域医療支援センター
〒732-0057 広島市東区二葉の里 三丁目2-3 広島県医師会館4階
TEL : 082-569-6491 FAX : 082-569-6492 E-mail : iryou@hiroshima-hm.or.jp





病院長
杉山 英二 先生
Eiji Sugiyama
岐阜県出身
弘前大学(1980年卒)



内科
杉野 健太 先生
Kenta Sugino
広島県出身
自治医科大学(2019年卒)

地域で活躍できる医師を目指して 学ぶ姿勢を持ち続ける

JA 広島厚生連 吉田総合病院

戦国武将、毛利元就のゆかりの地としても知られる安芸高田市。
市で唯一の総合病院として1943年に開設されたのがJA広島厚生連吉田総合病院である。
救急医療を一手に引き受けながら、健診センターでの予防から
98床の地域包括ケア病棟での回復期・慢性期の治療までトータルで診ている。

編集制作
「民間医局」株式会社メディカル・フロンティア社
Art Director・藤又シゲカズ BITB Inc.
Writer : 安藤博
Photographer : 猪俣淳

**救急対応から幅広い診療まで
豊富な経験を積める**

杉山：杉野先生は当院に赴任して1年半ですが、最初の印象はどうでしたか？
杉野：ここに来るまでは三次救急病院に勤務していたので、実は「そこまで忙しくはないだろう」と思っていたんです。でも、実際は外来の患者さんも多いですし、救急や健診にも力を入れているので、想像以上に忙しい日々を送っています笑。
杉山：安芸高田市にある総合病院は当院だけなので、患者さんが集まりますからね。救急搬送は年間1000台近く、ウオーキンでも3000件以上あります。特に整形外科は県内で初となる人工関節手術専用のロボットを導入するなど、診療に強みがあるので紹介患者が多いです。
杉野：私も救急当番に入ることがありますが、変形性関節症や圧迫骨折などの患者さんは、よく搬送されています。
杉山：救急だけでなく、県北一の健康管理センターと人工腎透析センターがあります。長年にわたって県北の精神科医療を支えてきたため、身体合併症を伴う精神疾患の患者さんの診療にも取り組んでいます。
杉野：幅広い領域で地域のニーズに応えてきた歴史があるんですね。
杉山：そのとおりです。杉野先生もそうですが、当院には地域医療を学びたいという若い先生たちが来てくれてとても助かっています。

杉野：そうですね。地域医療を学ばせてくださいます。
杉山：2024年4月からは広島大学の初期研修プログラムの協力病院として、初期研修医の受け入れもスタートします。和気あいあいとした雰囲気、地域医療で求められるcommon diseasesの診療を学べるので、ぜひ入っていただきたいです。
杉野：症例もたくさん経験できるのではお勧めです。
杉山：若い先生たちには総合的な診療スキルを身に付けると同時に、「これは自分の強みだ」と言えるものを持つしてほしいと思います。
杉野：私は内科全般の診療をしながら、今後は皮膚科についても学びたいと考えています。杉山先生がおっしゃるような強みにできたら。
杉山：皮膚科を診られる総合診療医は強みになりますよね。地域医療を目指す人たちも、高度医療を学ぶことはとても大切です。初期研修を地域の病院で受けてから、さらに高度な医療を学ぶために都市部の病院に行くのも選択肢の一つ。修練を積んだものを地域に生かしていけば、より地域医療に貢献できるはずですよ。

病院長の杉山先生とも気軽に話せる関係性。診療について相談をすることもある。

杉野：この地域に根差した医療をしていると感じるのが、スタッフさんたちのご家族を診るときです。診察日以外にもお会いすることがあるので、気軽に「調子はどうですか？」と聞ける親密さもあります。
杉山：それが地域に密着した病院の良さですね。
杉野：はい。また、ここに来てから新たにチャレンジしたこともあります。今までやったことがなかった健診業務を担当するようにになりました。
杉山：年間5000件以上の内視鏡検査を実施しているの、しっかり手技を身に付けられると思います。
杉野：おかげで今では一通りの健診業務ができるまでになりました。内視鏡検査は3人の医師で担当し、2人の専門医が

指導についてくださるので、画像を見ながら「これはチェックした方がいいよ」とアドバイスをもらえます。何かあったときには聞くことができるバックアップ体制が整っているの、安心してできます。
杉山：私も2年半前に赴任してから、専門のリウマチ・膠原病以外に内科全般を幅広く診療するように変わりました。初めは新しい薬の名前を覚えるのも大変でした笑。
杉野：そうだったんですね。ここでの勤務は、オンとオフの切り替えができるのも魅力です。
患者さんが多いので勤務時間はものすごく忙しいですが、時間外はしっかり休める。私は小学校3年生から剣道をやっているので、週に1回は練習に行っています。
杉山：オフの時間は自由に過ごしてほしいので、若い先生たちに負担が集中しないように勤務体制を整えています。杉野先生は、次は六段に挑戦するとか。私も応援しています！

医師として成長するために 自分の強みを見つけてほしい

杉山：杉野先生はもともと地域医療に興味があったのですか？
杉野：初めから興味があったわけではなく、自治医科大学で学ぶうちに先生や先輩たちからの影響で、徐々に「地域医療に関わりたい」という気持ちが強くなっていきました。

杉山：当院に来てから、診療においてもどんどん成長していますよね。特に患者対応は素晴らしいです。



JA 広島厚生連
吉田総合病院

〒731-0595
広島県安芸高田市吉田町吉田 3666
TEL : 0826-42-0636
FAX : 0826-47-0007

Hospital Director :
杉山 英二
■ 病床数 ……255床
■ 医師数 ……30名



<https://yoshida-gene-hospi.jp>



病院長
永澤 昌先生
Akira Nagasawa
広島県出身
広島大学(1983年卒)



放射線診断科
岡田 康平先生
Kouhei Okada
広島県出身
広島大学(2017年卒)



救急科
松本 文雄先生
Takeo Matsumoto
広島県出身
広島大学(2016年卒)



初期臨床研修医
桜井 悠一郎先生
Yuichiro Sakurai
広島県出身
広島大学(2022年卒)



温かな触れ合いを通して 医師としてのスキルを身に付ける

市立三次中央病院

さわやかな風が吹き抜ける山間部にある市立三次中央病院。
周囲には運動公園やスタジアム、地産のワイナリーが建ち並び。
2027年には「患者さんにも職員にも優しい病院」をコンセプトに、
感染や災害への対策を備えた、より機能的な新病院の開設が計画されている。

**暮らしを想像しながら
地域に密着した診療を**

永澤：3人とも広島大学のふるさと枠の出身です。ね、ふるさと枠を選ばれたのですか？

岡田：私は高校の担任の先生から制度について教えてもらったのがきっかけでした。今考えると、受験の数年前に祖父を自宅で看取り、地域医療の大切さに気付いたことも大きかったと思います。訪問診療の先生にとても助けていただいたんです。松本：私はふるさと枠の2期生なので、が、当時、まだ始まったばかりの制度だったので、競争率という点で有利かなと笑。

桜井：確かに制度を知らない人もいますよね。僕は田舎に住んでいた祖母が入院したときに中山間部にある病院の存在を知り、地域医療に興味を持ちました。何でも診られる医者になりたいと思っていたので、そのイメージともマッチしたのが選んだ理由です。

岡田：当院で地域医療に携わるようになって変わったのが、診療のときに必ずカルテの住所欄を見るようになったこと。病院から遠いのか、自宅の周りがどんな環境なのか、まずは患者さんの生活を考えるようになりました。

永澤：それはすごく大事ですね。地域医療では、患者さんの背景を見ることが欠かせません。ここでの診療を通して、患者さんの暮らしを想像しながら対応できる能力が身に付くと思います。

松本：私は救急科なので、救急外来で診療をしていると、社会的基盤が弱い方たちと多く接します。老老介護や高齢者の独居など、福祉のサポートが入っている

係性だと、どうしてもコミュニケーションエラーが起こりやすいので。

永澤：スタッフ間のコミュニケーションの良さは、当院がまだ小さな病院だったときからの風土ですね。お互いに意見を言い合えなければ、良い医療は提供できません。松本：救急搬送が立て込んだときなど、サポートの先生がすぐに来てくれるので助かっています。私が一人で診ているので常に気にかけてくださっているのだと思います。

永澤：コメディカルが優しいのも当院の特徴ではないでしょうか。昔からスタッフ全員で「医師を育てていこう」という風土があります。

岡田：それは診療をしているだけでも感じます。放射線技師さんに「こういう撮影も追加してほしい」と頼むと、いつでも気持ちよくやってくれる。手間のかかる作業でも嫌な顔をされたことがありません。

松本：私が救急搬送でベッド数以上に患者さんを引き受けてしまっても、「先生またですか！」と言いなが、看護師さんが率先してベッドの準備をしてくれました。

うした意味では医師としての力を存分に発揮できると思います。

医師へのサポート体制が充実している

岡田：医師へのサポート体制が充実しているのも当院の特徴ですね。研修の参加費や出張費を負担してもらえ、加えて電子カルテが見られるタブレット機器も医師全員に支給されています。

松本：サポートがあるからこそ「積極的に資格を取ろう」と力が入りますし、勉強のモチベーションも上がります。

診療科の垣根を越えて お互いにサポートし合う

永澤：当院は地域密着型の病院として70年前に開設し、地域からの求めに応じて診療科やスタッフの数、機能を拡大してきた背景があります。中でも医師の育成は重要な使命です。桜井先生は初期研修2年目、ここでの研修は順調ですか？

桜井：はい。僕の場合、各診療科にふるさと枠の先輩がいるので、ローテートしていてもすぐに馴染めました。年の近い先生も多く、気軽に質問できるのも嬉しいです。皆さん、熱心に指導してくださいます。

松本：自分次第で幅広く学べるので、型にはまった研修ではなく、いろいろ試しながら挑戦したい人には向いていますよね。岡田：研修医の先生にとっては、診療科の垣根がないこともメリットだと思います。私は放射線診断医として各診療科の先生方とレポートのやり取りをしますが、「名前は見ると顔は知らない」という関

「コロナ禍の病院実習はオンラインが多かったので、検査のやり方を一から丁寧に教えてもらえるのは嬉しいです」(桜井先生)



市立三次中央病院

〒728-8502
広島県三次市東酒屋町10531番地
TEL：0824-65-0101
FAX：0824-65-0150
E-mail：byouin@city.miyoshi.hiroshima.jp



Hospital Director：
永澤 昌
■ 病床数 …… 350床
■ 医師数 …… 86名

<https://www.miyoshi-central-hospital.jp>

03 中山間地域を支える 地域医療の現場！ ～ 広島県 地域医療最前線 ～



地域に必要とされていることが
医師としてのやりがいになる

庄原市立 西城市民病院

イザナミが葬られた場所として『古事記』に記されている比婆山。その神聖で豊かな自然に囲まれた地に庄原市立西城市民病院はある。地域のために力を尽くす若い医師と、待合室で気さくに患者さんたちに声をかける病院長の姿からは、この地に根差した医療を実践する優しいまなざしが伝わってきた。



病院長
郷力 和明 先生
Kazuaki Goriki
広島県出身
鳥取大学卒業(1974年)

内科
伊藤 洋行 先生
Hiroyuki Ito
広島県出身
熊本大学卒業(2018年)

医療と介護をつなぐ病院 無医地区での診療も

郷力：私は当院に赴任して24年になります。その間、地域の高齢患者さんたちを支えていくために地域包括ケアシステムの構築に取り組んできました。伊藤先生は庄原市のご出身なので、この地域の現状はよく存じですよ。

伊藤：はい。他の地域に比べても高齢化が進んでいますし、医師の数も足りません。私はこれまで広島市内の病院に勤務していて、ここで働き始めたのは半年前から。いつか地元の医療に貢献したいという気持ちがありました。

郷力：ここでは病院内だけの診療ではなく、医療と介護をつなげていくことが求められています。そのため地域の看護師さんや保健師さんたちの力を借りながら、徐々に地域包括ケアのネットワークを作り上げていったのです。

伊藤：都市部の急性期病院で働いていたときには「退院された患者さんが、その後どうなっているのだろうか」とずっと気になっていました。でも、ここに来て、患者さんたちがどんな状態で、どのような医療やケアを求めているのか分かるようになりました。研修会に参加したり、他の病院の取り組みを参考にしたりしながら、地域で必要とされる医療について勉強する毎日です。

郷力：熱心に取り組んでくれて嬉しくです。地域の患者さんたちをいかに診療していくかは、当院にとっても大きな課題です。その解決策の一つとして、病院に来られない人たちのために広島県のサポートで移動診療車を導入し、当院を含む県北の5病院で運営しています。他にも無医地区に合った比和に医師を派遣していて、伊藤先

「患者さんの背景を診ながら治療をすることで、より広くて深い医療に携わることができます。若い医師にとってその経験は必ず糧になります」(郷力先生)

生も行ってくださっていますよね。

伊藤：はい。医師のいない場所での診療は、地域を支える大事な役割だと思っています。病院に比べると設備が十分ではないので、レントゲンなどの検査が必要な患者さんは病院に紹介しますが、プライマリ・ケアは診療所でできています。

郷力：ここでは基本的な疾患だったら何でも診られることが求められますよね。

伊藤：そうですね。以前は専門以外の疾患は他の先生にお任せしていましたが、当院に来てからは内科全般を診るようになりました。自分で診られるものはできるだけ診ていくこと、気持ちも変わりました。

郷力：医師と介護の幅が広がっていますね。高齢者が多いこともあり、内科の中でも特に高血圧の患者さんは多いですよ。この辺りは漬物が美味いから、ついつい食べ過ぎてしまう。

伊藤：「塩分を控えよう」と言ってもなかなか難しいですよ。ここに来てびっくりしたのが、蜂に刺されたら、犬や犬に噛まれたりした患者さんを診る機会が多かったことです。知識としてはあったのですが、実際に治療したのは初めてです。

郷力：山間部の病院ならではの疾患ですね。私は、若い先生が赴任したら必ず患者さんたちがどのような生活をしているのか、まずはこの地域を知ってほしいと伝えているのですが、きっとそれが実感できているのではないのでしょうか。

伊藤：「塩分を控えよう」と言ってもなかなか難しいですよ。ここに来てびっくりしたのが、蜂に刺されたら、犬や犬に噛まれたりした患者さんを診る機会が多かったことです。知識としてはあったのですが、実際に治療したのは初めてです。

郷力：山間部の病院ならではの疾患ですね。私は、若い先生が赴任したら必ず患者さんたちがどのような生活をしているのか、まずはこの地域を知ってほしいと伝えているのですが、きっとそれが実感できているのではないのでしょうか。

自分で考えて、自分で動く 実践を通して力をつける

伊藤：地域病院ならではの例えば、患者さんとの距離感が近いですよ。外食に出かけた先が患者さんのお店だったり、日常生活でも地域の方々との交流があります。

郷力：コロナ禍になるまでは、「うちで採れたのでどうぞ」と野菜を持ってきてくれる患者さんもいましたよ(笑)。病院と地域が協力して開催している「ふるさと祭り」は、一時は中断していましたが、今年から再開しました。地域の方々との



交流もまた親密になつていくと思います。

伊藤：私も緑の下力持ちのようなイメージで、この地域の皆さんの健康を支えていたらと思っています。医師として必要とされているのを日々感じながら診療もできていくことが、頑張る力になっています。

郷力：地域病院に勤務していてもキャリアパスが見えるように、三次市・庄原市の4病院で連携をとり、手厚く指導できる体制を整えていきたいと考えています。

例えば、初期研修医が専門性のある指導医のもとで研修を受けられるように人材交流を図るなど、お互いに協力し合う仕組みづくりを目指しています。

伊藤：どの病院でもしっかりとスキルを身に付けることができるので、初期研修医にとっては魅力的ですね。私自身、当院に勤務してから、もっとできることを増やしたいと思うようになりました。

郷力：伊藤先生はどんなスキルを身に付けたいですか？

伊藤：上部消化管の内視鏡検査はできるようになりたいです。もともと呼吸器が

専門なので気管支鏡検査は経験があったのですが、消化管はほとんどやったことがなかったんです。上級医の先生を見ていても、専門に促われないとほとんどん手技を磨いている方が多くて刺激を受けます。

郷力：地域医療では「自分はこのだけ診ればいい」ということはないですよ。若い先生たちが貪欲に学んでくれているので、院内も活気があります。

伊藤：医療は、先輩や上級医の先生に教えてもらって学ぶこともありますが、時には思い切って「えいや」とやってみることも必要ですよ。現場で実践しながら学びたい人には、当院はお勧めです。

郷力：確かに医師の少ない病院では、一人ひとりの医師が自分で考えて、動くことが求められています。

伊藤：私の場合は、大学時代に熊本の離島で研修をしたことで、自分で実践しながら力をつけていく面白さを実感できました。学生や初期研修医のうちに地域医療に慣れておくと、都市部の病院で働くだけではない、新たなキャリアの選択肢が見えてくると思います。



庄原市立
西城市民病院
〒729-5742
広島県庄原市西城市町中野 1339 番地
TEL : 0824-82-2611
FAX : 0824-82-2012
E-mail : saijyo-hospital-soumu@city.shobara.lg.jp

Hospital Director :
郷力 和明

■ 病床数 …… 54床
■ 医師数 …… 7名

<http://saijyo-hospital.jp>

